



超我の奉仕

2005～2006年度
国際ロータリーのテーマ
超我の奉仕

2005～2006年度
カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

Weekly Report

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：守谷 巖樹
幹事：鈴木 幹雄
会報委員長：長坂 邦雄
例会日：毎週木曜日 PM12:30～
会場：ヒルトン名古屋
事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
TEL: 052-211-3803
FAX: 052-211-2623
MAIL: 2760nagoya@mizuho-rc.jp
URL: http://www.mizuho-rc.jp/

▶ 第1240回例会

～新世代のための月間～

2005年9月1日(木) 晴 第8回

司会：(堀 慎治会場委員)
体操：ストレッチング(吉木洋二会場委員)
斉唱：「君が代」「奉仕の理想」
ゲストスピーカー：JR東海取締役 小玉俊一氏
ゲスト：2005～06年度R財団国際親善奨学生 小川博子さん
(倉澤寛親睦活動委員)

▶ 会長挨拶

守谷巖樹会長

年をとると女房がどんどん強くなる、とこぼしている人をよく見かけます。日本の女性が強くなっているのは事実だと思います。先日のことですが、本日のゲストであります小玉さんが主催する、茶道関係の方の懇親会がありました。小玉会長挨拶の冒頭、出席者が予想に反して大半がご婦人でしたので、大変戸惑っている様子でした。華道の世界などは、今やほとんどが女性です。



戦前、私が子供の頃は、家庭の中では、神棚や仏壇のお祭りは男性がやるものでした。茶道や華道の先生は男がやるものと思っていました。なぜ変わったのでしょうか？ 私なりの考えを申し上げます。

明治初期、日本の伝統文化が維新の影響などで大変衰退しました。明治の中期になり段々と再興し、その後、国が政策として当時の女学校に、茶道や華道を正課として取り入れたのです。男子中学校には軍人教官が配属され、軍事教練が正課として取り入れられ、男はいつでも戦争に出られるよう、女は家庭を守るよう、というのが目的だったのでしょう。戦争が激しくなると男性は戦場に駆り出され、銃後は女性が男性に変わり仕事をするようになり、自信をつけはじめました。敗戦から立ち上がる時は、男性より女性の方がしっかりしていました。その上、参政権を獲得し、女性がますます自信をつけたのです。男性はといえば、敗戦で自信をなくし、戦後は企業戦士として猛烈に働かされ、遊びといえば飲む(屋台)、打つ(麻雀)、刈る(ゴルフ)で少ない余暇を浪費しました。

その間、家庭の電化が進み、女性の家庭での仕事が益々少なくなりました。しかし女性は男の仕事の世界にはあまり入ってきません。余暇は自分達にとって楽しい遊びと趣味に使っています。日本の文化が女性に支配されてしまうかも知れません。皆さんはどうお考えでしょうか。

▶ 出席報告

亀井直人出席副委員長

会員75名 出席52名 (出席計算人数56名)

出席率69.64%

8月25日は補填により 82.14%
8月18日は補填により 94.64%
8月4日は補填により 100%

▶ 幹事報告

天野正明副幹事

・本日例会終了後、13時35分より「第3回理事会」を9階「ことぶきの間」にて開催致します。関係各位はご出席下さい。

▶ 9月誕生日おめでとう

小林 幸男君 高須 洋志君 八木沢幹夫君
岩根 敬泰君 近藤 雄亮君 越原 一郎君
岡村 達人君 小串 和夫君

▶ 米山功労者表彰

米山功労者になられた吉木洋二君に、守谷会長より認証状が授与されました。



▶ 臨時例会変更のお知らせ

名古屋		9/20(火)※		
名古屋西		9/22(木)※		
名古屋南		9/21(水)※		
名古屋北		9/23(金)※		10/7(金)※
名古屋東	9/12(月)			
名古屋守山	9/14(水)※			
名古屋東南	9/14(水)	9/21(水)		
名古屋和合		9/21(水)※		
名古屋名東		9/20(火)※	9/27(火)	10/4(火)
名古屋名北	9/14(水)			
名古屋千種				10/4(火)
名古屋大須		9/22(木)※		10/6(木)
名古屋栄		9/19(月)※		10/3(月)◆
名古屋名駅	9/14(水)※			
名古屋昭和		9/19(月)※		10/3(月)
名古屋西南			9/29(木)	
名古屋錦			9/27(火)	
名古屋東山				10/6(木)
名古屋空港	9/12(月)※	9/19(月)※	9/26(月)	
あま				10/3(月)
西春日井		9/20(火)	9/27(火)	
尾張中央		9/21(水)		
豊山一城北			9/27(火)	
名古屋葵			9/29(木)※	

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◆はサイン受付時間が17:00～18:00となります。

・本日お話の機会を頂きまして。JR東海取締役 小玉 俊一氏
 ・9月4日は誕生日です。老年が重なります。今後ともよろしく。

小林 幸男君

・9月は誕生日です。56歳になりますが、あと少しで出席免除の資格が得られます。待ち遠しい!

岡村 達人君

・残暑お見舞い申し上げます。防災記念日です。 守谷 巖樹君
 ・本日は防災の日です。もう一度身の回りをチェックして下さい。

中川啓二郎君

・本日は卓話に小玉さんをお迎えして。小玉さん、よろしくご指導の程お願い致します。

野崎 洋二君

・本日は幹事代行です。よろしくをお願いします。 天野 正明君

・過日、花粉症の件で八木沢先生にお世話になりました。来年の春が楽しみです。

宮崎 信次君

・一寸良い事がありました。

大川 嘉成君

・欠席が続きました。スママセン。

亀井 直人君

・本日の卓話は新世代委員会の担当です。本日は、東南RCの小玉さんに卓話をお引き受け頂きました。ありがとうございました。

平野 好道君

・防災の日です。 宗宮 信賢君

▶ 2005~06年度R財団国際親善奨学生挨拶 小川博子さん

皆様こんにちは。私は2760地区からR財団国際親善奨学生として、アメリカに3ヶ月間留学する事になりました。異文化理解と国際親善、平和促進というロータリーの使命に関わる役割を頂けて、大変光栄に思っております。まず初めに顧問ロータリアンになって頂いた小串様を初めとして、私を推薦して下さいました瑞穂RCの方々にとっても感謝しています。ここに改めて御礼を申し上げます。留学先はノースカロライナ州です。ビザや航空券の準備も終わり、あとは出発を待つばかりです。



話は変わりますが、私はこの4月から7月まで短期留学していました。異文化圏で生活した経験から、私の中で変わった事があります。それは自分のものとは違う文化を見る視点です。それまで私は違う文化をみる時に相違点にばかり目を向けていました。しかし、実際に外国で生活して現地の人たちと交流する中で、異文化を理解する為には相違点に目を向けるよりも、自分との共通点に目を向ける事が大事だという事に気がつきました。違いにばかり目を向けて、自分から相手との間に溝を作っていくのではなく、共通点を見つけて相手に親近感を持ち、自分から相手に歩み寄っていくという事です。その視点は今回のアメリカ滞在でも役に立つと思います。出来るだけ多くの人と触れ合って、色々な事を経験し、語学力だけでなく色々な面で成長して帰ってきたいと思います。R財団の国際親善奨学生として、そして日本人を代表している事を忘れずに、日本に興味と関心、そして好感を持って頂けるように活動していきたいと思ひます。皆様のアドバイス・ご指導をよろしくをお願いします。

▶ 卓話

JR東海取締役 小玉俊一氏

▶ 「ロータリークラブ百年と新世代委員会活動」

まず初めに、3月19日に開催されました100周年記念イベントの御礼を申し上げます。この企画には途中から参加して頂きましたが、熱心に活動して頂いて感謝しております。このイベントで何が成功したかと申しますと、1,000人もの人々を集める事が出来たという事です。まず各クラブのロータリアンが、自身の家庭の青少年教育が出来ているか、確認の意味も込めまして奥さんと子供に参加をしてもらうよう呼びかけました。そして奥さんを通じて、知り合いやご近所の方にも呼びかけてもらいました。あとは会社の社員にも呼びかけてもらいました。ただ、ロータリアンの皆様のみ呼びかけでは人数が集まるかどうか不安でしたので、「中学生日記」と「金八先生」の2大テレビ番組にご協



力を頂くという事になりました。当日、入り口で数えておりましたら、およそ1,000人を超える方々にお越し頂きました。関係者一同飛び上がって喜んだ次第であります。

当日参加された方の感想ですが、会場でアンケートをとりました。頂いた回答の中で良くなかった点としてあげられていたのは、「時間が足りない」「1つ1つのテーマをもっとしっかりやってほしい」というのがほとんどで、あとは「非常に良かった」と感想を頂いております。具体的には「教育」と「非行」の問題が少なかったのではないかとのご意見を多く頂き、「また是非ともやってほしい」という回答も多く寄せられました。

成功裡に終わりました100周年イベントですが、どのようなやり方で取り組んだのかをご説明申し上げたいと思います。はじめに委員会を開き、最も多く時間を費やしたのが、100年のロータリーの歴史から学ぶものは何かという事です。そしてその中で今後、どういった方向を模索していったらいいのか、を地道に議論し、そして付帯的に行事を、と考えておりました。実際には行事に大半の時間を費やしてしまい、反省しております。

次にテーマを何にするか、大変な問題でありました。そして議論の結果、環境問題もしくは青少年問題を取り扱おうという事になりました。どちらのテーマにするのか、結論に至る過程で、私は教育の問題で気になっていた事がありました。まず一つ目は校長先生や教頭先生が、理想の教育と色々な団体との軋轢に悩んで、相次いで命を絶たれた事件に関してです。二つ目はボーイスカウトやガールスカウトの事です。かつて日本はジャンボリーにおいて、世界のどの国と比べて見ても礼儀正しく、団体行動をとる時もきちんとしていました。それが最近のボーイスカウトは、団体行動の際に素早く行動する事が出来ず、マナーもあまり良くないという事を聞き及んでおります。仕事柄、旅行業にも通じておりました。過去、日本の旅行者はとてもマナーがよいと信頼されておりました。ですが今ではゴミを捨てたり、マナーも悪くなってしまいました。私たちの子供の頃は、親から厳しくしつけられました。なぜそのようなことが起きているのか。それは戦後の教育に何か欠けているものがあるのではと思えてなりません。そしてそれが1世代だけでなく2、3世代と続き、親のしつけもなければ学校のしつけもない、そういうものが何もない事が原因ではないかと考えました。実際に青少年による犯罪が増え、各方面で取り上げられ、時期的にも議論するには最適なテーマではないかということで青少年問題をテーマにしました。

ただ行事が中心となり、研究が少なくなってしまった事もあり、まとめの意味も込め記録誌を作りました。その際に100年前にRCが出来た時と今と、何が変わっているかという事を考えました。何が一番変わったかという、行政が一番変わったと思ひます。昔は福祉や慈善活動があまりありませんでしたが、今日では福祉面は行政が果たす役割が大きくなっております。ボランティア活動もとても増えてきました。かつてRCが親睦と福祉活動を行ってきましたが、その質も量も今の世の中では完全に変わってしまったのではないかと思います。それではRCは今後どうあるべきかといいますと、世の中の変化に対応し、それぞれの時代にあった、意味のある活動を行えばいいのではないかと思います。ですが実際RCの活動を見ますと、色々な委員会がどんどん増え、いざ問題が起きた時に焦点がぼやけ、分散してお金を使ってしまう事態になっています。日頃から各RCが連係し、意見を交換していく事が大切ではないかと思っております。是非とも実践して頂きたいと思ひます。

▶ 今週卓話

9月8日(木)

会員卓話：入江 理君

テ — マ：「地震について part II」

▶ 次週卓話

9月15日(木)

会員卓話：倉澤 寛君

テ — マ：「私の震災体験から」